

諏訪地方の 経済概況 速報

2017.01

2016年12月末調査／2017年1月30日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

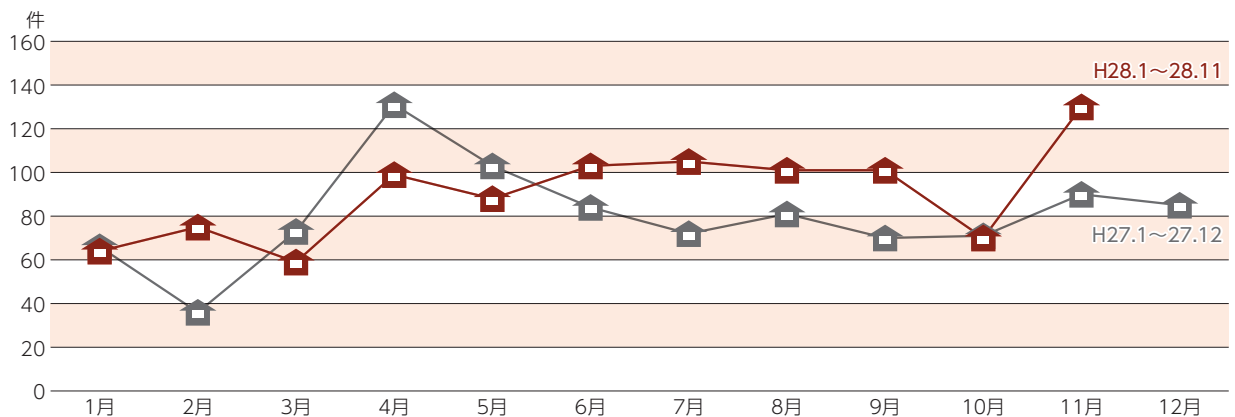
諏訪地方の概況

平成28年は、海外で起きた想定外の事態が、市場を揺るがした1年となった。12月の日本経済は、日米金利差の拡大などで「トランプ相場」の勢いが強まり、株価は1年ぶりに1万9000円台に回復し、円は一時1ドル118円台まで下落した。海外経済復調の影響などで政府は、1年9ヶ月ぶりに景気判断を引き上げた。諏訪地方では、製造業は総体的に緩やかな改善傾向が続くが、取引先を通じて米国との関係がある企業も多く、トランプ氏の言動や大統領就任後の動向を懸念する声が挙がっている。非製造業は、年末と本格的な冬期を迎え慌ただしい動きとなった。諏訪地方の有効求人倍率は依然、高水準を維持しており、人手不足感も続いている。

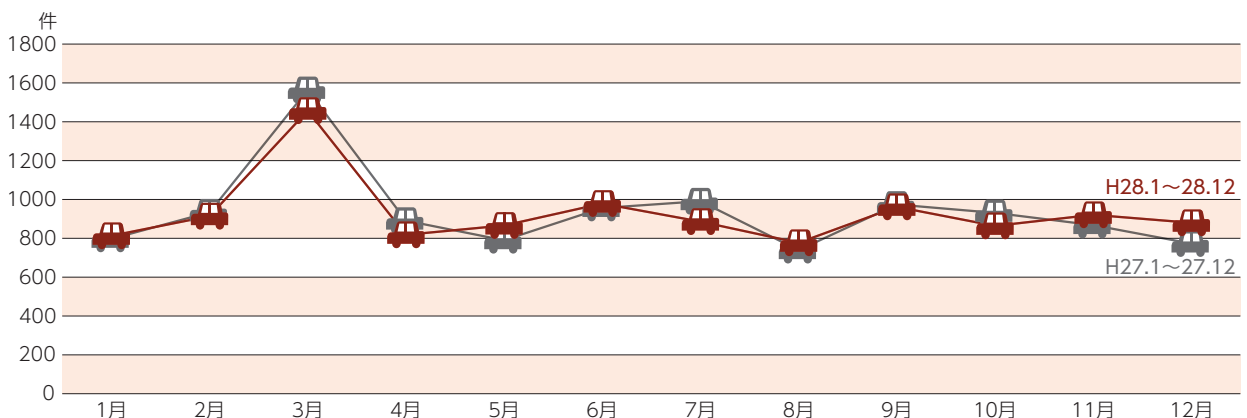
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【11月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.48倍	0.16ポイント
手形交換高【12月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	4,563枚	△464枚
	金 額	5,686百万円	△380百万円
うち不渡り発生状況	枚 数	5枚	5枚
	金 額	960千円	960千円
車庫証明取扱件数【12月】(諏訪地方合計)		880件	13.8%
新設住宅着工戸数【H28年4～11月】(諏訪管内)		797戸	13.5%

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



■車庫証明件数の推移



12月の諏訪地方の製造業は、企業間格差はあるものの、各業種で受注が回復しつつある企業が増え、総体的に緩やかな改善傾向が続いている。ただ、米国や欧州にエンドユーザーを持つ企業やメキシコに拠点を持つ企業をはじめ、多くの企業がトランプ氏の大統領就任後の動向や英国のEU離脱の動きを警戒し、先行き不透明感がある。輸送用機械の自動車部品関連は、メーカーや車種によって差があるが、減少傾向だった受注状況が、いくぶん回復してきていると感じる企業が増えている。金属製品加工は、単発で短納期が多く長期的予測が困難だが、主要取引先からの受注回復が見られる。一般機械は、省力化機械の受注が安定している。半導体製造装置関連の産業用ロボット関連も好調。電気機械は、電源関連や一部プリンター関連で好調な動きが続いている。精密機械は、業界ではカメラの新機種の動きは鈍いが、半導体製造装置部品、実装機関連部品の受注は増加傾向となっている。

<p>金属製品 プレス、メッキ、熱処理など</p>	<p>自動車関連は、低迷が続く企業と、低水準での推移を予想していたが急に受注が戻った企業、一部で動き出したと感じる企業がある。ただ、一様に先行きは不透明で、米国の動向次第で急変する恐れもあり、トランプ大統領就任後の動きに注目している。また、中国向けで一部機械設備需要があり、半導体製造装置関連が増加傾向となっている。</p>
<p>一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など</p>	<p>省力化機械は繁忙状態の企業が多く、安定的な動きとなっている。自社で消化しきれない仕事を外注に回しても手一杯で引き受けてもらえないケースもある。中国向け自動車関連の省力化機械も好調な動きとなっている。半導体関連の受注も回復傾向となっている。一方、工作機械は北米向けなどに動きがあるが、アジア向けは依然低調で先行きも不透明なまま推移している。</p>
<p>電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など</p>	<p>一部プリンター関連は好調に推移している。中国で機能アップの投資があり、スマートフォン基地局の機能増強に向けた光通信関連も好調な動きとなっている。自動運転などでセンサー部品は今後ますます増えると思われる。また、首都圏で五輪関連施設の建設が本格的に動き出すと、電源装置関連の需要増加も見込まれる。都市部への営業力を強化する企業もある。</p>
<p>輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など</p>	<p>国内外で好調なメーカーがある一方で、足踏み状態のメーカーがあり、地域企業が影響を受けている。燃費データ不正問題では、スズキは脱した感がある一方、三菱自動車は動いてはいるものの、脱し切れていないという感触を持つ企業がある。5業種中、最もトランプ氏の言動を注視しており、特にトヨタ関連で影響が危惧されている。メキシコに工場がある企業は、まだ生産面への影響は出ていないが、慎重に様子を見ている。北米と欧州にエンドユーザーが多い船外機は、世界市場では波があるものの、下請け企業への発注には影響が及んでいない。</p>
<p>精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など</p>	<p>カメラ業界では新機種が発売されたが、動きは鈍く、欧州を市場とする取引先には不安定要素もある。医療用機器のエンドユーザーが米国の企業も今後不安を感じている。半導体製造装置部品、実装機関連部品、通信ケーブル関連の受注は増加傾向となっている。韓国や台湾から受注がある圧力計関連も今のところ、影響は見られない。</p>
<p>製造業全般</p>	<p>冬の寒さを利用した諏訪地方特産の角寒天の製造が、繁忙期に入った。道の駅の売上が増加傾向で、遠方からの注文やリピーターも多い。味噌は例年1～2月期に一度需要が落ち込み、3～5月に増加するが、12月は需要が高まり、最需要期の水準となった。衣料は、秋冬物の受注が低調で、ニット業界は低調に推移している。</p>

商業

「ボーナス、クリスマス、年末年始商戦で活発な動き」

12月はボーナス、クリスマス、年末年始と1年のうちでも商戦が続く時期で、小売店などは集客に力を入れた。ボーナスやクリスマスでは子供向けのおもちゃ、カップル向けの宝石類、自分へのご褒美でコート類などが売上を伸ばした。年末年始は掃除用具や正月用品、年越し用オードブルなどが例年並みの動きだった。年末需要で肉や野菜が高値で推移し、鶏肉は鳥インフルエンザの影響で国内産が品薄となった。自動車販売では、諏訪地方の12月の車庫証明件数が880件で、前年同月比107件、13.8%増加した。

衣料	成人式向けのスーツ類には動きがあったが、今年の12月は比較的気温が高く、防寒着類は例年より伸びなかった。
食料品	年末需要もあって生鮮野菜、精肉鮮魚関連の価格は高めとなった。水産、惣菜はあまり振るわず、国産牛、和牛も供給不足だった。ギフト関連は贈答用のリンゴが好調だった。
家電製品	年末の大掃除に向け、スチームクリーナーなどの掃除用品が伸びた。ボーナス時にはやや高めの商品も動いた。
自動車	平成28年の国内新車販売が5年ぶりに500万台を割った。軽自動車の落ち込みが大きい。足元では各社の新モデルが好調で販売回復の兆しも見られる。
ホームセンター	年末にかけてしめ飾りや鏡もちなどの正月用品、お客を迎えるためのシクラメンなどの花や鉢花が売れた。

観光・サービス業

「スキー場は順調な滑り出し」

12月の平均気温は中旬が平年より低かったものの、月全体では1度以上高めとなった。11月末の自然降雪はその後の雨で融け、自然の雪は少なかったものの、人工降雪でスキー場はほぼ予定通りにオープンした。暖冬で開場が遅れた前年に比べ、順調な滑り出しとなり、北信地方のスキー場が雪不足だったため、諏訪地方の追い風となった面もある。一方、11月の降雪時にクローズしたゴルフ場は営業を再開し、年始まで続いた施設もあった。ただ、年末年始は、曜日並びの関係で大型連休にならなかったことから、前年同月比の売上は減少した施設もある。

上諏訪温泉	12月の宿泊人数は、施設によってまちまちだが、総体的に前年同月より減少した。施設別では前年同月比90%台～110%台だった。構成人員別では依然2～4人の個人客が前年を上回り、方面別では県内、関東、東京方面。県外客が主力の夏場に比べて、冬場は県内客が多い。諏訪湖温泉旅館協同組合加盟施設は平日宿泊格安プランなどのキャンペーンを行っている。
蓼科・白樺湖・車山等	11月に降雪があったが、基本的に暖冬でスキー場には雪不足の懸念があり、ゲレンデ設営に苦労する施設もある。富士見方面はクリスマスから年末年始にかけて予想以上の来場があった。白樺湖のドーム船のワカサギ釣りは観光客に認知されつつある。諏訪湖のワカサギの大量死の影響もある。
下諏訪温泉	団体客は減少傾向が続くが、家族単位などの個人客が増加し、前年を上回った施設がある。ネットの個人予約が好調。
諏訪大社	上社・下社合わせた12月の参拝者数は約3万7千人。前年同月比では約7千人の増加(25.8%)となった。

建設業

「手持ち工事終了後の動向を不安視」

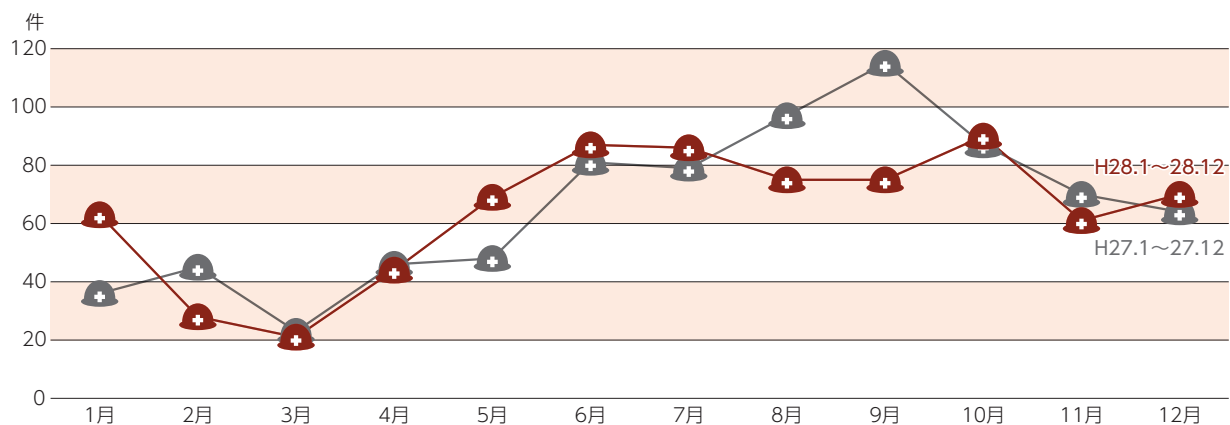
12月の市町村からの受注工事は合計70件、390百万円となった。前年同月に比べ、件数は6件増加し、契約金額も61百万円増加した。国県関係は平成28年4～12月の累計公共工事（地元業者受注分）が前年同期累計比で件数、契約金額とも増加している。ただ大口案件は少ない。当面の工事量は確保しているものの、前年より厳しい状況で、手持ち工事終了後の動向を不安視する企業がある。民間工事は、諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数が130戸で、前年同月比40戸増加（44.4%）した。、平成28年4～11月の累計は797戸で、前年同期比95戸増加（13.5%）した。諏訪地方では「貸家」の伸びが大きい。

公共工事	12月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所16件、林道治山工事関係1件、農地整備課1件、県警察2件の合計20件で、契約金額は285百万円だった。平成28年4～12月の累計は128件、3,692百万円で、前年同期の累計比で件数は16件、契約金額は279百万円増加（8.2%）した。市町村からの12月の受注工事は、建築工事1件5百万円、土木工事および下水道工事56件327百万円、その他工事13件58百万円となった。
民間工事	諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は5戸減少の66戸、「貸家」は4戸増加の14戸、「分譲」は41戸増加の50戸、「給与」は変わらず0戸だった。長野県内の11月の新設住宅着工戸数は1,134戸で、前年同月比16.4%増加した。前年同月比の利用関係別では、「持家」と「分譲」が2ヶ月ぶりの増加、「貸家」は5ヶ月連続の増加となった。

■諏訪地方の11月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利用関係別								構造別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	23	19	22	12	0	4	0	0	1	3	20	16	3	3
諏訪市	55	19	9	17	0	0	0	0	46	2	7	17	48	2
茅野市	36	29	23	21	10	6	0	0	3	2	34	20	2	9
諏訪郡	16	23	12	21	4	0	0	0	0	2	12	21	4	2
合計	130	90	66	71	14	10	0	0	50	9	73	74	57	16

■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



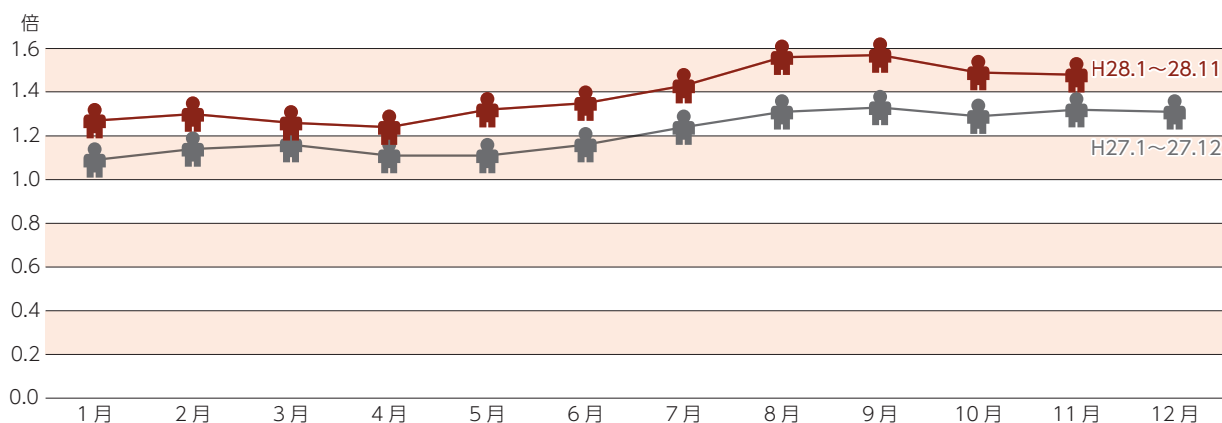
雇用

「有効求人倍率5ヶ月連続1.4倍台以上」

諏訪地方の11月の有効求人倍率は、前年同月を0.16ポイント上回る1.48倍となった。前月を0.01ポイント下回ったものの、5ヶ月連続1.4倍台以上の高水準で推移している。1倍台の維持は32ヶ月連続で、前年同月を上回るのは42ヶ月連続となっている。長野県平均も1.48倍で前月を0.01ポイント上回り、約23年ぶりの高水準が続いている。県内4ブロック全てで37ヶ月連続前年同月を上回り、29ヶ月連続で全国平均を上回っている。全国平均は1.41倍で25年4ヶ月ぶりの高水準となっている。一方、11月の完全失業率は3.1%で、3ヶ月ぶりに悪化した。失業率は約21年前の低い水準にある。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,700人で、前年同月比260人増加(18.1%)した。要因別では、「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」が増加し「継続する人員不足」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は「生活関連サービス・娯楽業」「飲食店・宿泊業」が増加し、「その他サービス業」が減少した。新規求職者数は680人で、前年同月比45人減少(△6.2%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は21人で前年同月比39人減少、前月比では5人減少した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 派遣社員は、時給が高い都市部に集中している。地方の中小企業は高い時給では成り立たない(金属製品製造業)。
- 天皇陛下の生前退位で元号が変わると、ATM、発券器、自販機など搬送機器が新しくなり、受注増加につながるかもしれない(一般機械製造業)。
- 低迷している韓国企業の影響が懸念され、取引先の動向が不透明(電気機械製造業)。
- メキシコ工場はトランプ大統領の就任による先行き不安がある。まだ生産面への影響は出ていないが、様子見状態(輸送用機械製造業)。
- 自動車部門は、今後の米国との関係が不透明で静観している(輸送用機械製造業)。
- 取引先の製品が欧州を市場とするため、不安定要素がある(精密機械製造業)。
- 御柱祭のためか、今年は年間通じて消費者に買い控えの傾向があった(小売店)。
- ドローンを使った測量や3D設計などが進んできているが、設備投資負担は数千万円単位と多く、投資時期に迷う(建設業)。
- 北信地域に雪がないと、県内すべてのスキー場でも雪不足という印象になり、集客に影響する(観光業)。

長野県の金融経済動向

(2016年12月14日) 日本銀行 松本支店

— 2016年の公表日の前営業日時点で利用可能であった情報をもとに取りまとめ。

長野県経済は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は緩やかに減少している一方、住宅投資は持ち直している。この間、設備投資は緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。また、個人消費は一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。

以上のような最終需要のもとで、生産は新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得は、全体として着実な改善が続いている。なお、企業の景況感をみると、製造業、非製造業ともに改善となった。先行きは製造業で悪化、非製造業で改善を見込んでいる。

生産

半導体関連・電子部品等では、スマートフォン向けは幾分持ち直しているものの、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

自動車関連では、北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

機械・同関連部品等では、工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などがみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているが、中国などのIT向けを中心に弱さがみられる。

飲料では、生産は横ばい圏内で推移している。

個人消費

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、10月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。

家電販売は、10月は前年を上回った。

自動車販売は、11月は前年を上回った。

公共・住宅投資

公共工事請負金額をみると、10月は国、県、市町村、独立行政法人等の発注分が減少したことから、前年を下回った。

住宅着工戸数をみると、10月は持家、分譲が減少したものの、貸家が増加したことから、全体では前年を上回った。

雇用・所得

有効求人倍率をみると、10月は新規求職者数が減少したことから、上昇した。所得面では、10月は一人当たり名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。

輸出・企業収益・設備投資

輸出は、16年度は前年度を下回る計画となっている。

企業収益は、16年度は前年度を下回る計画となっている。

設備投資は、16年度は前年度を上回る計画となっている。

物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)をみると、10月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>